



資料

入学式式辞全文

— 大学生と100冊の本 —

(タイトルと小見出しは、教育後援会 会報編集部)



宮原さんの「SAYURI」と8歳の出会い

皆さんの先輩に当たる文学部3年次生の宮原知子さんは、今年の2月21日、平昌で開催された冬季オリンピック、女子フィギュア・スケート、シヨート・プログラムの使用曲を、2005年のアメリカ映画『SAYURI』から採用して、見事に演じ切り、自己ベストを出しました。ところで、映画『SAYURI』には、アーサー・ゴールデン(Arthur Golden)による *Memoirs of a Geisha* という原作(1997年刊)があります。宮原さんは、英語の原作を読んで、その世界観を理解することが良い演技につながるはずだと考えて、常にゴールデンの原作を携帯し、練習の合間に少しずつ *Memoirs of a Geisha* の原文を読み進めたと述べています。

宮原さんにとって、この原作には、不思議な出会いと特別な思いがありました。宮原さんが一家でアメリカに住んでいたころ、親友シャルロットさんのお母さんから、彼女が8歳の時に、プレゼントされたものだそうです。『SAYURI』を

滑ることになって、自宅の書庫を探したら、プレゼントされた英語の原作が出てきました。宮原さんは、それ以来カバンにこの1冊を忍ばせていたといいます。

皆さんには、宮原さんのように、カバンに忍ばせて読み進めている本がありますか。電車のなかで読むために手にする本がありますか。ベッドに入って繰り返しページをめくる本を持っていますか。本屋さんに行つて本を探す楽しみを経験していますか。好きな人に本を紹介したり贈ったりする楽しみを味わっていますか。

今ここで決心してください

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学式の学長式辞として、私は皆さんにこれから二つのことを申し上げます。私の話の結論を簡潔に表現しておきましょう。一つは、「君たちは大人である」ということ、そしてもう一つは「本や新聞を読むように」ということです。本日を期して、大人であることを自覚し、本や新聞を読む人間になることを、今ここで決心してください。

さて、それでは大人であるということについて、これまで高校では生徒と呼ばれていた皆さんは、今日の入学式をもって、大学の学生になります。生徒と学生、呼び方は異なりますが、3月までのあなたと4月からの君たちとの間に決定的な違いがある、というわけではありません。昨日と比べて身長が5センチ伸びたわけではないし、体重が10キロ増えたわけでもありません。急に大人びたわけがなく、にわかには成人にふさわしい責任感と判断力が身についたわけでもありません。皆さんの大半は18歳でしようから、現行の成人規定に従えば、20歳を迎えて成人になるには、まだ1年から2年ほどの時間が必要です。

それゆえ、いまだ皆さんは未成年であり、一般には父母をはじめとする保護者の下で、養育される存在です。しかしながら、同じ未成年といっても、皆さんは中学生や高校生とは違います。これまで以上に皆さんは、明らかに自分で判断し自分の行動することを求められる存在です。そして自分の行動の、動機と目的、方法と結果に対して、一人の人間として相応の責任を引き受けなくてはなりません。



まだ社会人でない？ 大人でない？

いや、そういつても私は未成年であり、ましてや大学生なのだから、社会的責任を自分自身に引き受ける必要はないと、思っている人もいることでしょう。20歳になれば、社会に出れば、卒業すれば、仕事についたら、その時には大人の社会人として責任がかかってくる。しかし、まだ私は社会人ではない、大人ではないと言いたくなるでしょう。

しかしながら、私はそうは考えません。2015年6月の公職選挙法改正によって、皆さんはすでに、18歳になると同時に、選挙権を持つことになりました。この選挙権の拡大に伴って、18歳と19歳の未成年が、選挙運動を行うことも解禁されました。しかし同時に、未成年であっても、あなたが「悪質な選挙違反」に関与した場合には、刑事処分が相当として、検察に送致することが原則となりました。

また現在、成人規定自体を18歳に引き下げる議論が進んでいます。すでに政府は、今年の3月13日に、成人年齢を20歳から18歳へ引き下げる民法改正案を閣議決定しました。今後、国会で改正案が成立すれば、2022年4月以降、18歳から成人として一人で契約を結ぶことができるようになります。

18歳は大人の社会人

もう少し長いスパンで物事を見てみましょう。現在は高校を卒業した後、大学に進学する若者が、同世代の5割を越えています。さらに、専門学校を含めると、8割の若者が高校を卒業して、すぐ



には働いておりません。しかし、30年前あるいは50年前には、高校卒業後に多くの人が、進学することなく18歳で社会に出て働いていました。さらに、それより以前には、中学校を卒業して15歳の若さで会社で働く人も珍しくはありませんでした。現在でも、皆さんの同級生の中には、大学に進まず、高校を出て働いている人、あるいは少数とはいえ、中学を出てそのまま働いている人がいるはずですよ。彼ら額に汗して働く同級生のことを、皆さんは、まだ未成年だから社会人ではない、というのでしょうか。

現在の民法では、男子は18歳から女子は16歳から、結婚して独立の家庭を営むことができます。20歳以前に結婚して家庭を営む夫婦は、民法の「未成年者が婚姻をしたときは、これによって成年に達したものとみなす」という条文の適用を受けます。いわゆる、この「みなし成人規定」によって、「親権者などの法定代理人」の同意を得ることなく、彼らは単独で法律行為を行うことができます。この結婚した未成年者は、大人ではないのでしょうか。社会人ではないのでしょうか。

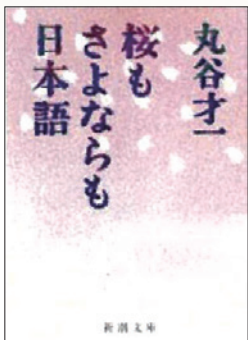
以上のことから考えれば、自分は未成年であり、ましてや大学生なのだから、社会的責任を自身に引き受ける必要はないとは、とても言えないとい

うことになります。20歳になれば、社会に出れば、卒業すれば、仕事についたら、そう言い分は、単なる言い訳なかもしれません。すでに18歳になった皆さんは、実質的には大人の社会人であって、状況によって、自身の言動に伴う相応の責任を引き受ける必要があります。以上の意味において、あなた方は今日から大学生であるとともに、実際、もう立派な大人なのです。であるからこそ、今日からは一人の大人として自由に考え行動し、同時にその責めを負う覚悟を、今日ここで心に固く決めておいてください。

「読書ゼロ」の驚き

ところで、先般、大変気がかりな記事が、新聞各紙に載りました。全国大学生協連が2017年の秋に実施した「学生生活実態調査」によれば、1日の読書時間を「ゼロ」と回答した大学生が前年比で4ポイント増加して、とうとう53・1%となったというニュースです。全国の国公私立30大学約1万人の学生から得た回答を集計した結果です。つまりほぼ半数の大学生には本を読む習慣がないという残念な結果です。

いったい全体、日本の大学生は自分の将来につ



いて、真剣に考えたことがないのでしょか。少しでも真剣に将来のことを考える人であれば、あなたに必要なことは、これから学生時代のうちに、本や新聞をしっかりと読んでいく習慣を身につけることです。それは、単純なように見えますが、もつとも大事な基礎作業で、また間違いなく効果が上がる方法です。知識が増えるだけではなく、理解する力や考える力も養われ、コミュニケーション能力や表現力も、確実に高められる方法です。ちなみに、一般にアメリカの大学生は、平均して1年間に100冊、4年間で400冊を読みこなすといわれています。もしあなたが、会社の人事採用担当者であるとしたら、めったに本なんか読まない学生と400冊の本を読んだ学生と、いったいどちらを採用しますか。

心をこめて「100冊」をあなたに

そこで、あなたが自らの人生を大切に生きていくために、私たちは今回、100冊の本をリストアップしました。私が学長として20冊、さらに紀伊國屋書店と丸善雄松堂の2つの大手書店のご協力を得て、書店の目利きの方がたから、それぞれ40冊を推薦していただき、100冊のリストにして、いま皆さんの手元にお配りしています。

今回の100冊を、皆さんにすべて買いなさい、すべて読みなさいと言っているわけではありません。あくまで、読んでほしい、ぜひ読んでみたらというリストに過ぎません。優れた本の「究極のリスト」ではありません。たとえば、私の選択に



関していえば、難しすぎるものを避け、古典作品を避け、特定の専門分野を避け、値段の高いものを避け、ハードカバーを避け、1人の著者からは1点に限り、出版の古いものや絶版になつているものをあきらめて、もっぱら文庫本で出されている求めやすいものに限定して、でも心を込めて選んだつもりです。

44年前の伏線

さて、100冊の本といえば、私には忘れられない思い出があります。今から44年前のことです。高校の卒業式を控えた18歳の私は、高校の国語の先生から「私が薦める100冊の本」と書かれたプリントをもらいました。「君たちに読んでほしいから」という理由で、ガリ版刷りで先生が作成された、1枚のプリントです。著者、タイトル、出版社がびっしりと書き込まれたプリントをもらった私は、大学に合格してから、なげなしの貯金をはたいて、薦められたその100冊の本を買って求めました。1日1冊のペースでこなしていった、1年生の夏ごろには読み終えたこと記憶しています。個人の興味、趣味や好みの違いがありますから、読んでみて先生の100冊の、すべてが素晴

らしかったというわけにはいきません。しかしながら、大学1年生の私が読んだ100冊の本のなかには、今も忘れることのできない思い出となっている、いくつかの作品があります。

京阪電車で「塩狩峠」に泣きました

ここでは1冊だけ挙げておきます。皆さんは、三浦綾子の『塩狩峠』という作品をご存知でしょうか。主人公は、永野信夫さんという名前の若い鉄道員です。主人公の生い立ちを書き綴りながら、クライマックスでは、1909(明治42)年に、北海道で実際に起こった鉄道事故を描いた作品です。事故は、名寄駅から札幌駅に向かう列車の車両が途中の塩狩峠の頂上にさしかかろうという時に起こりました。最後尾の車両の連結部が外れてしまったのです。その時たまたま最後尾に乗り合わせた永野さんは、とっさに乗客を守るためレールへ飛び降りしました。乗客全員は無事でした。でも、結婚を控えた32歳の永野さんは汽車の下敷きとなって自ら命を落としました。先生の100冊に載っていたこの『塩狩峠』という作品を、そのとき私は、大学から帰る途中の京阪電車のなかで読んでいました。私の心は強く揺さぶられ、涙が止まらなくなり、最後は



しゃくりあげるようになるのを、唇をかんでこらえていました。18歳の私の小さな思い出です。

まさか、本や新聞を読まない人と…

あなた方は、身分・形式上の大学生ではなく、本物の大学生になるために、これからずっと、本を読まなくてはなりません。お金をやりくりして、これはという本を買わねばなりません。本や新聞を読まない人を生涯の友人に選んではなりません。まったく本や新聞を読まない人を、会社喜んで採用してくれるはずはありません。まさか、本や新聞を読まない人を、結婚して家庭を営む、かけがえのない生涯の伴侶とされるつもりではないでしょうか。やがて、あなたが家庭を持ち子どもに恵まれた時、自分の子どもを、まさか本や新聞のない家庭環境の中で、育てるつもりではないでしょうか。

もし今、あなたに本を読む習慣がないのであれば、今日から本と向き合う決心を固めてください。それこそ、これからあなたが、自らの人生を大切に生きていくために、今しなくてはならない大事なことです。

保護者の皆さんからも「1冊」を

東体育館のご父母を始めとする保護者の皆さん、本日はご子女のご入学にあたり入学式の式典に参加していただきありがとうございます。私からこの場を借りて、一つお願いがあります。「サン・ジョルデイの日」という記念日のことをご存知でしょ



うか。4月23日のこの日は、愛する人や近しい人に本を贈る日として知られています。この日は、『ドン・キホーテ』の作者セルバンテスの命日(1616年)であり、さらにシエイクスピアの誕生日(1564年)にして命日(1616年)である、とされています。そこで、4月23日のサン・ジョルデイの日に、スペインのカタルーニャ地方では本をプレゼントする習慣が広がり、いまではユネスコの「世界、本の日」となっています。4月23日には、ご子女のご入学を記念して、えりすぐりの1冊の本を、ご本人にプレゼントしていただければ幸いです。

3万人の若者へ 本と向き合ってください

私たち関西大学は、本日新しく、6801名の新生を迎えることができました。新年度を迎え、大学全体では、大学院学生を含めて3万人を越える若者が、学生として学ぶこととなります。皆さん、入学した今日から、本と向き合う決心を固めてください。あなたが本物の大人の大学生になるために。

2018年4月1日
関西大学学長 芝井 敬司